

SSUUBI

01. August. 2010 vol.4



SSUUBI 通信は・・・

青年海外協力隊の畠山裕恵が、村落開発普及員としてウガンダでどんな活動をしているのかお知らせする通信です！！タイトルの SSUUBI とはルガンダ語で HOPE という意味です。星の色はウガンダの国旗に使用されている色です。

Vol.2 の内容

- 、 2009年12月から2010年4月までの活動報告
- 、 ウガンダ文化 「住環境」「お金」
- 、 ウガンダギャラリー 「私の住む街ブワマの人々」

、 2009年12月～2010年4月までの活動報告

1. 改良かまど普及 (配属先のメンバーと講習会を開き、普及)
2. 衛生キャラバン(環境教育)の実施 (同期隊員と後輩隊員と協力しつつ実施)
3. 収入向上のためのかごの販売 (首都カンパラにて販売中)
4. 草木染め講習&かごの編み方講習会の実施 (カウンバにある女性グループで実施)
5. 学校運営のサポート終了
6. 漁村のグループと関わることを断念
7. きのか栽培開始 (学校ではなく農民グループで新たに開始)
8. ケニアで開発フィールドワーカー養成講座受講 (配属先のダイレクターと一緒に受講)

改良かまどの普及・収入向上のためのかごの販売 以外の活動について報告します。

衛生キャラバン(環境教育)の実施

衛生キャラバンは小学校にて衛生に関する授業を行います。今回第2弾となったわけですが、小学校配属の隊員に気になる衛生面を聞いたところ、ゴミとの声が多かったです。また、先輩隊員(もう帰国してしまった)が環境教育をもともと行っていてそれを拝見させてもらっていたので私たちが続けていこうとなり、衛生キャラバン環境教育編がスタートしました。私一人の活動ではなく、同期隊員と後輩隊員と行う活動です。

内容は以下の通りです。

1 日目 焼却炉を子どもたちと先生と一緒に作る。それだけで終了。

2 日目 授業をする。

環境ってなんだろう、ゴミってなんだろうという問いかけ、 ゴミには2種類（自然物と人工物）あることの説明。

自然物と人工物の分別をしましょうという提案・ゴミの分別ゲーム。

自然物は土に返るのでデスポーザルピットを作って埋める。

人工物は焼却炉で燃やすというゴミの処理方法の提案。

シンガポールのきれいな街とウガンダの街の比較をして何が違うか問いかけ。

シンガポールは法律でポイ捨てが禁じられているため街がとてもきれい。

自分の街もシンガポールのようにきれいにするにはどうしたらよいかの問いかけ。

（ゴミのポイ捨てをしないと諭す モラル教育）

みんなで校内のごみ拾い。

焼却炉の使い方説明。

最後に衛生リーダーを選出。ゴミのポイ捨てをしない環境づくり、焼却炉の補修などの役目を担ってもらう。

みんなで写真を撮って終了。

ウガンダ人はどこでもポイ捨てをよくします。自分の家以外の場所は平気で捨てます。ゴミ箱があってもそこに捨てない人が多いです。自分の家はとてもきれい（毎日床はいてふく）なのに、外は気にしない様子です。大人がそうなので当然子供もゴミを捨てます。また、ゴミの収集システムが首都以外はないのでみな普段はゴミを山にして燃やします。なので熱効率が悪く、ゴミはすべて燃えきらずに残ってしまいます。それが余計に街を汚くしています。焼却炉を作るのは手間がかかりますが、野焼きするよりも熱効率はいいのでこれを作ることを勧めています。



私の家の裏のゴミ捨て場。街中いたるところにあります。

焼却炉

この衛生キャラバンを行っても彼らの習慣を変えることは難しいと思います。ただ、ポイ捨てをしないほうがいいよなとか、自分の家だけじゃなくてその周りも気にかけて、きれいにしたほうが気持ちいいなど、少しでも気づいてもらえることを目的として活動を続けたいと思います。

1 ページめの写真も焼却炉です。大勢でやると早いですが大体3時間ほど制作に時間がかかります。

草木染め講習会 & かごの編み方講習会の実施

今までかごを販売していた女性以外でかごの制作を通して収入向上をはかってはどうかという女性グループがありました。

村の名前：カウンバ 特徴：年配の女性中心のグループ。

私が赴任してまだまもない頃、このグループの人たちを対象に改良かまどの講習会を行いました。講習会の際、リーダーの女性は欠席……。英語が通じないということで私はもうただひたすらかまどを作り、身振り手振りで説明しました。その後、かまどが乾いたかどうか確認をしに、またカウンバを訪れるとグループの何名かが、自分でかまどを作っていたのです。これには大変驚きました。私はみんなも作ってみてねと言ったわけではないですし、作ったかまどが効果的かどうかを彼女たちはまだ知らなかったのです。それでも自分で材料を集め、何時間もかかるかまどづくりをやってみようと思った女性たちに感心しました。

グループに対して何度かかまどの講習会を行って気づきましたが講習後自分でつくるというウガンダ人はそうそういません。作らずに終わるか、私たちがまた呼ばれて手伝いつつ作ることが多いです。そこでこのグループはとて素晴らしいグループではないのかと半年以上たった後に思いました。また、何度かこのカウンバの村を訪ねて気づいたのはかごに必要な材料がたくさんあるということ。そこでこのグループでかごの制作を促し、彼らの収入向上につなげて行きたいと考えました。

彼らから一度もお金や物資の要求をされたことがない
意欲的な女性たちではないかという仮説
その土地にかごの材料がたくさんある



かご作りを提案

かご作りのメリット

材料が現地で調達可能、
空いた時間に好きなときに作れる。

かご作りデメリット

首都カンパラでは商品があふれているため
なかなか売れない。
売れる商品づくりに悪戦苦闘中。

本題の草木染め講習会とかごの編み方講習会について

先輩隊員の任地で草木染めの知識があり、それを活かしてかごを作成している女性がいました。名前をナムスエさんと言います。

かごの染料は私の任地で手に入りますが、隔週行われるマーケットデーでしか購入できません。

そこで草木で染める方法を女性たちに教えてもらおうと先輩隊員にお願いし、ナムスエさんを連れて来ていただきました。ナムスエさんはかなり貫禄があり、彼女たちにびしびし指導をしておりました。

また、ナムスエさんは日本人と長い期間関わっているからか、日本人のいうことはちゃんと聞きなさい（時間を守るとかたぶんそちらのこと）ということも彼女たちに話してくれたそうです。大変有意義な講習会になりました。



ナムスエさん



草木染めの材料



グループのメンバー

ウコンで染めたオブソ

この講習会では染め方のみだったので彼女たちはまだかごの編み方を知りませんでした。かごの編み方講習会は後日やる予定だったのですがケニアにPCMの研修を受けにいったため2週間ちかくこのグループを訪問できずにいました。

どうしているかなと思いましたが村を訪れると、彼女たちは自分たちでその後も草木染めを行い、さらには近くの村からかごを作れる女性を呼び、勝手に自分たちでかごを作っていました。なんて行動力のある女性たち！！

ただ、まだカンパラで販売するにはクオリティーが低すぎるので、再度、私が今まで商品を販売していた女性を呼び講習会を行いました。彼女たちは初めてクオリティーの高い彼女のかごをみたので勉強になったと思います。今も彼らはかごの編み方を練習中です。今まで作ったものは任地で安価で販売しています。（配属先のオフィスと隔週で行われるマーケットデーにて）任地でもかごを贈り物として購入してくれる人がおり少しずつ売れています。何件かオーダーも受けました。任地でもほんの少しですが売れるとわかりうれしかったです。



なかなか収入向上をはかるだけの売上がないのが現状ですが、カンパラでの市場探しと売れる商品づくりの提案を行っていき、少しでも彼女たちの暮らしがよくなるよう今後も頑張ります！そして私の帰国後は配属先のダイレクターにお店のやりとりと売上の管理などをして継続してもらえればと考えています。ダイレクターにその役目が務まるかかなり不安ですが、ぼちぼちやっていきます。

学校運営のサポート終了

学校の先生、校長先生のやる気がみられないことから学校運営のサポートを終了しました。育てたメイズもきのこも一回きりで終わってしまいました。継続不可能と感じ諦めました。彼らはこつこつ自分たちでやることよりも資金援助がやっぱり欲しいようです。活動を共にすることをやめました。

漁村のグループと関わることを断念

こちらの漁村のグループもお金や物資の援助の期待が大きく、かかわるのをやめました。

ここで思うこと

貧しい人はそこにとどまるだけの理由があるということ。

彼らはとても保守的です。でもそれはすごくわかる気がします。

貧しいゆえにリスクを負いたくないのです。

なので貧しいグループの人たちと関わって彼らをどうこうするよりも中間層のグループと関わり、彼らの生活や現金収入を向上する方がいいと感じました。

彼らが成功していけばそれを貧困層の人にも伝えるし、貧困層の人も彼らが成功したならとついていくはずです。ウガンダではねたみ、恨みもあるようで、誰か一人だけが得をしていたりすると、嫌がらせを受けるようです。出る杭は打たれるといったようなことがあるようです。

なので、自分だけが得をするのではなく、得た知識は周りの人にも教えようとする傾向があります。今後は中間層の人たちと活動を共にしていきたいと思います。

きのこ栽培



きのこ栽培を SSUUBI GROUP と始めました。

グループメンバーは貧困層というよりは中間層の人たちです。きのこ栽培に必要な材料費はすべてメンバーがだしてくれました。このグループと活動するのはとても楽しいです。左はメンバーの写真です。

今までこのグループのメンバーと行ってきたこと

- ・きのこの栽培方法の習得。
- ・地元の人をターゲットにきのこの販売をスタート。どうしたら地元の人を買ってくれるかを考え、実行。
- ・メンバーのみできのこの栽培・販売・売上の管理をスタート。

きのこ栽培のメリット

- ・初期投資が少なくてよい。種と黒いビニールの袋、ロープと小屋があればできる。
- ・周りに栽培している人が少ないため、競争が激しくない。

ということできのこ栽培は現金収入向上をはかるのにとてもいいと感じ、前々から目をつけていました。任地で売ることができるというのが最大のポイントでした。学校で行ったときは長続きしませんでした。このグループは農民グループなので続けてくれています。

しかし・・・、

きのこ栽培デメリット

- ・大規模に育てないと収入が少ない。
- ・任地の人をターゲットに売っているが、予想以上に生のきのこを知らない人が多く、買いたがらない。



苗床のメイズの芯を砕いている様子と砕いた物。

こんな感じで育てて、右のようなきのこが採れます。

今後行うこと

きのこの栽培量の拡大。

きのこを任地の人（特に富裕層）が買うようになるために積極的な働きかけ。

現在の不安

きのこの苗床にうみのようなものが発生し、苗床を廃棄している。

原因不明。メンバーのやる気の低下。

予想以上にきのこ栽培で現金収入向上をはかるのは道のりが長いと感じています。

この活動で本当に収入が増えるのか？とは彼らも思っている様子。初回の栽培はうまくいったものの、2回目、3回目はうみが発生した苗床もありました。それを廃棄したため収穫量が増えずメンバーのやる気が低下中。この原因を知ることと、本当に続けたいメンバーだけを集めて栽培を継続していこうと思います。

ケニアで開発フィールドワーカー養成講座受講

2月25日から3月3日までケニアで配属先のダイレクターと一緒に研修を受けてきました。アフリカの一部の国から2名ずつ隊員とそのカウンターパートがケニアに集い農村調査法やPCM手法などを学びました（JICAが費用を全額負担）。技術補完研修で一度村落隊員は学んでいるのですが、更に

詳しく学びました。ディレクターは今までこういった研修に参加したことはありません。彼女にとっては有意義なものになったと思います。この研修のメインはPCM手法についてでした。PCM (Project Cycle Management) 手法とは、開発援助プロジェクトの計画立案・実施・評価という一連のサイクルを「プロジェクトデザイン マトリックス (PDM : Project Design Matrix)」と呼ばれるプロジェクト概要表を用いて運営管理する手法です。地域や村に何か問題があってそれを解決するためにPCM手法は有効です。この講習の後半は配属先のディレクターと一緒に任地で起こっている実際の問題をPDMを作成するところまでやり、皆の前でプレゼンしましょうという内容でした。



ウガンダについて発表中



配属先の活動向上のための計画を発表中



修了証書を受け取るディレクター

本来ならば、配属先が関わっているグループなり、地域の問題を解決するために問題を分析して、活動計画をたててとなるのですが、私は前々から気になっていた、配属先 (CBO SMADA) 自体を問題点としてあげ、活動が活発ではない状況をどう解決していくかということを話し合いました。当然彼女にとってほかの国から来た人たちに自分の配属先が機能していないと告げることは気持ちのいいことではありません。また、問題分析の過程では、論理的になぜ配属先の活動が活発ではないのかを探ります。ウガンダ人をはじめ、アフリカの人々はなぜなのかを考えることが難しいようです。(学校教育が答え暗記式の授業のためだと思われます。) なかなか議論がすすみませんでした。

さらに、私の意見はことごとく否定されてしまい、原因分析で何度も言い合いを繰り返しました。例えば、活動が活発ではないのはアクションプランが現実的ではないから、また、アクションプランがみんなできちんと共有されていないから、アクションプランを実行するためのマネジメントスキルがディレクターに不足しているといったことも原因ではないかと意見すると、そんなことはないと認めてもらえませんでした。

私ももっと相手に気を使って議論をすすめれば良かったのですが、英語でそんな気の利いたことを言えるわけもなく率直に意見を述べていたため、途中、ディレクターは退席し、泣き出してしまいました・・・。予想外のできごとに私自身も泣きたくりましたが、とりあえず謝罪をし、他の人(アフリカ人)に彼女のケアをお願いしました。

私のやる気もそこでぷつぷつ途切れてしまい、自分の組織を向上する気がディレクターにないならもう知らないとなりました。本当に他の人たちの配属先と比べてどうしようもない配属先に自分は赴任したんだなということや自分の思いやりのなさやコミュニケーション力のなさに情けない思いで

いっぱいになりました。

彼女はその後、私の言っていることは正しいし、終わったことは水に流しましょう的なことを話してくれ、謝ってくれました。ウガンダ人がごめんなさいと言うのはとても珍しいことです。なんとかプレゼンも完成させ、発表することもできました。

彼女が気持ちを持ち直し、議論を続けてプレゼンを完成できたのはうれしかったのですが、その後ダイレクターと話す気にはなれず、ウガンダに帰国後、距離を置くようにしました。

彼女が自分で組織を変えようとなったなら距離をもとに戻そう。そう考えました。

ただ、本当に組織を変える努力をしなかったらそれはそれで研修の意味がないので釘をさしておきました。半年後、この研修を受けてどうしたかという報告を JICA に行わなければいけないこと、1人あたり10万円以上も JICA がこの研修のために費用を負担してくれたこと、ウガンダからは2団体しか選ばれておらず、ほかにも行きたい人がいたのに、いけなかったこと、さらには担当調整員に任地に来ていただいて、この研修の成果を見せてほしいといったことを伝えてもらいました。本当は別に成果など見せなくてもいいのですが・・・。

ケニアに行けてあーよかった！で終わらせたくなかったので調整員に協力していただきました。

その後、ダイレクターが自分ひとりで準備をし、配属先のメンバーと再度自分たちの配属先の活動が活発ではないという問題を PCM 手法を用いて話し合いました。

活動を活発にするために大体ケニアでた結論と同じものが挙げられました。

活動計画の見直し

予算の獲得（お金の極力かからない活動を前提にしつつ、グループのメンバーからのメンバーシップフィー、地元出身の国会議員からの支援を得れるようにする）
マネジメントスキルの向上（組織運営、時間の管理、資金管理などなど）
メンバーの改選

私が一番行いたかったのはこの組織の活動計画の見直しです。

もう一度、自分たちのスキル、資源を確認して、任地の人々のために何ができるかを考えて、多額の資金がなくてもできることを活動計画としてたてていこうとなりました。

この組織はプロの組織ではありません。ボランティア団体です。

素人は素人らしく、できる範囲でやればいいと思います。それが積み重なっていけば、よい効果が生まれると私は考えます。ウガンダ人は大きな成果をすぐ得たがります。成功は一夜にして手に入るものではないのですが・・・。

私の団体のメンバーは村落開発の知識はなく（農業に関する知識や経験はある）、NGOでの

就業経験者もゼロという状態で立ち上がっています。ただ、地域の中では教養があり（大学を卒業又は高校を卒業している）思いやりにあふれる人たちです。

この機会に彼らの身の丈にあった活動は何かを話し合い、実態のない団体ではなく、きちんと定期的に行うことができる団体へと変わって行って欲しいです。

活動を活発にするためにはどうすべきかという議論が終わり、今は活動計画を立てようという段階に入りました。ケニアから帰国後何度も MTG を開催してきましたが、ダイレクターの姿勢が少しずつ変わっていています。よりリーダーとしてしっかりしていている気がします。なので、私はケニアから帰国後した当初よりは距離を置かなくなりました。

また、先日 JICA ウガンダの所長が私の配属先を訪問して下さい、ダイレクターと色々話をしました。その際、私が主役ではなくあなたが主役ですよねといったことをダイレクターに話してくれました。ダイレクターもそれが私達に欠けていることだと認めていました。

本当に実態のない団体から彼らが主役で活動する団体へと変わることを願います。次号の通信ではその後どうなったかをお伝えしたいと思います。



ホテルの食事おいしかったです。



イエメンから来ていたちょい悪おやじ風のアスリさんと。



西アフリカの伝統的な服。



日本料理店にてまたまたアスリさんと。

ウガンダ住環境・お金

ウガンダ住環境

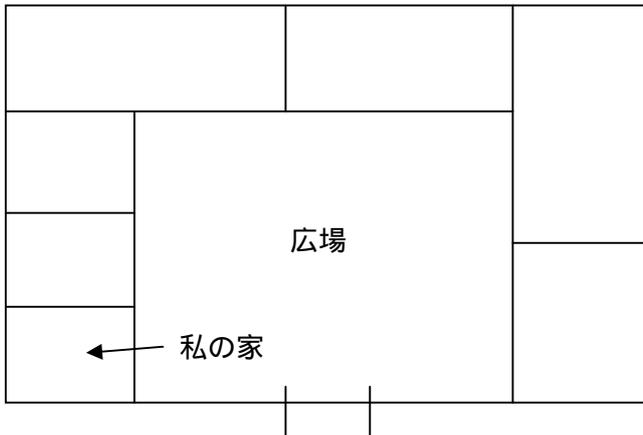
ウガンダのタウン（道路沿い）のお家と一般的な家庭のお家を紹介します。

ウガンダのタウンのお家は企業の宣伝に使われていることが多いです。広告の品をそのお家が売っているわけではありません。企業から広告料をもらえるからということで以下のようなカラフルなお家が並びます。以下写真参照（携帯電話の会社が目立ちます。）



ウガンダのお家 タウン編

壁はレンガでつくりセメントで仕上げたお家がほとんどです。屋根もトタンがほとんどです。私の近所は賃貸の家がほとんどで、長屋に5～6個部屋があり、そこにそれぞれが住んでいます。トイレやお風呂場は共用です。また、長屋は以下ようになっており、真中のスペースで洗濯をしたり、料理をしたりしています。毎日近所の人と顔を合わせ、子供たちも近所の人みなで面倒をしています。日本だと、近所の人と家族のような付き合いにはなりませんが、ウガンダはもう近所の人みな家族という雰囲気です。子供が悪いことをすればそれが自分の家の子供ではなくとも叱ります。昔の日本はこんな感じだったのだらうと思いました。



ウガンダのお家 村編

村の中でも土壁に屋根が藁というのはまれなような気がします。煉瓦がむきだして、セメントで仕上げられていない&トタンの屋根が多いです。村の人はお家とキッチンが別にあります。まきを使用している家庭が多いからだと思います。



レンガにとたん屋根のお家 ディッシュラックとキッチン かわいいお家 土壁に草の屋根の家

ウガンダのお金

日本のお金は円ですがウガンダのお金はウガンダシリングです。紙幣は 50,000ush、20,000ush、10,000ush、5,000ush、1,000ush。500ush 200ush 100ush 50ush はコイン。



20,000 シル



5000 シル



1000 シル



コイン

1,000 シルのものは日本円で約 50 円です。

1,000 シルで 買えるもの

ペットボトルのお水 (1) 安い屋台の食事 1 食分 (肉や魚なし) 250ml のパックジュース、古着の T シャツ 1 枚 (結構ぼろい感じ)

平均的な人々の収入 (1 か月)

- 農民 100,000 ~ 200,000 シル (5 千円 ~ 1 万円)
- 公務員 300,000 シル ~ 500,000 シル (1 万 5 千円 ~ 2 万 5 千円)
- 国会議員 1,000,000 シル

、ウガンダギャラリー 「私の住む街ブワマのお世話になっている & 大好きな人々」





次回はウガンダ文化・コミュニケーションをお伝えしつつ活動報告をいたします。

写真左：赴任して1年たったので自分の活動を報告しました。

写真右：同期女性隊員と。

